

# 株式会社KOEDA



代表取締役  
奥園 徹氏

## ●企業の概要

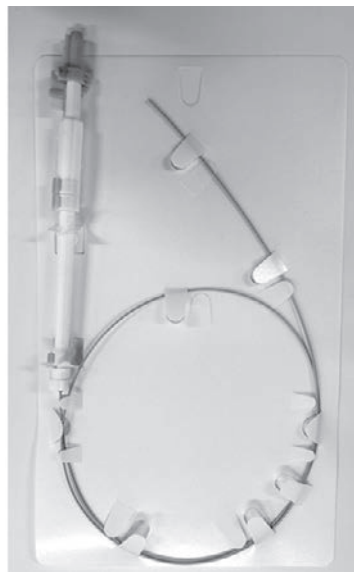
企業名：株式会社KOEDA（コエダ）  
代表者：代表取締役 奥園 徹  
住所：宮城県仙台市青葉区貝ヶ森1-27-11  
設立年：2022年  
業種：医療機器開発・製造  
資本金：51百万円  
従業員数：3名

## ●事業の概要

超音波内視鏡を用いた全く新しい治療機器を開発し、現在行われている急性胆嚢炎のドレナージ治療の課題解決をめざす東北大発スタートアップ企業。急性胆嚢炎の治療において新たな治療方法と機器を世界で初めて開発し、実用化に向けた研究を行っている。2027年の国内販売、2030年の米国・欧州での販売を目指す。

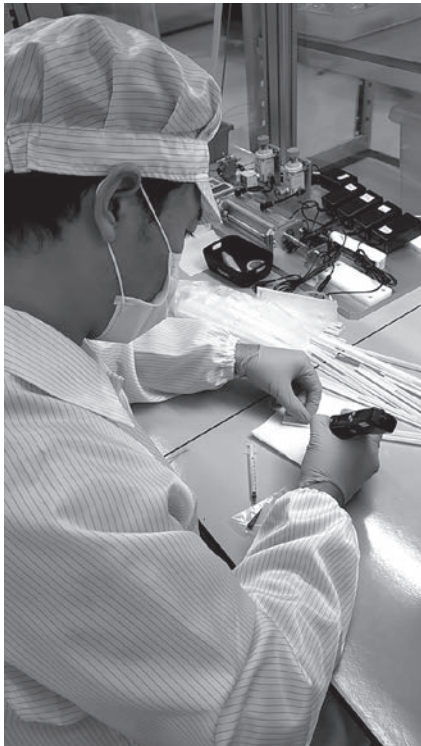


イベント出展時 集合写真



デバイス写真

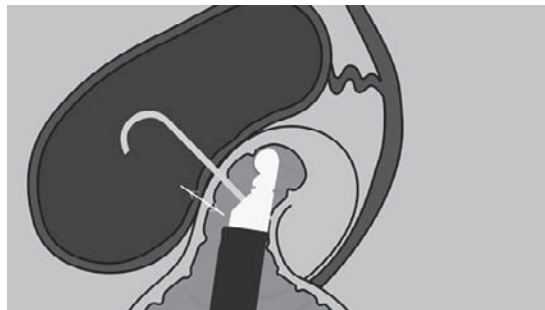
# 急性胆嚢炎の治療における新たな医療機器を開発、患者・医療従事者双方の負担軽減とともに、日本はもとより世界の医療発展への貢献が期待される



作業風景



ピッチの様子



デバイス「KOEDA」留置イラスト

## ●受賞の理由

急性胆嚢炎の治療において推奨される方法は胆嚢を摘出することであるが、様々な要因から緊急胆嚢摘出手術に至るケースは全症例のうち半数程度である。残りの半数については、後日、胆嚢摘出を行うため、まずは緊急で胆嚢の膿を排出する治療を行う。一般的に行われている治療法は腹部に針を刺して胆嚢にチューブを留置する方法であるが、この方法には激痛を伴うことと、長期間の入院が必要になるという課題がある。近年では、超音波内視鏡を用いた治療法が行われている施設もあり、この方法では痛みも少なく入院期間も短縮されるが、高い技術力を要し成功率が高くないことや保険適用外の治療であること、当該治療で使用したチューブの周りに炎症が起き胆嚢摘出に移行できないといった課題がある。

従来の内視鏡的ドレナージ治療は、胆嚢の膿を排出するチューブを胃から胆嚢に挿入する際に、胆嚢の移動により挿入が困難となる場合がある。また、そのチューブを留置した後も、本来離れている位置にある胆嚢と胃が元の位置に戻ろうとして離れることで、チューブが抜け胆汁が漏れて腹膜炎を引き起こし大事に至る場合もある。今回開発したアンカー器具およびドレナージチューブを用いて最初に胃と胆嚢を固定させることで、チューブの挿入を容易にするとともにチューブの逸脱も防ぐことが可能となる。この急性胆嚢炎における新たな治療法は、患者および医療従事者双方の負担を軽減し安全な医療環境を提供することを可能とした世界初・画期的な治療法であり、新規性・独自性の観点から大いに評価できるものである。

食生活の欧米化と高齢化により急性胆嚢炎の国内年間発症例数は10万件以上で、過去10年間で約3倍に増加しており、今後も増加していくことが見込まれる。また、欧米ではさらに急性胆嚢炎の発症率が高い状況にある。今回開発した製品は海外においても競合する製品はなく、日本はもとより世界の医療発展に多大な貢献をもたらすことが期待される。